

横浜で一番面白いもの 芸人三昧 検索

# 浪花の歌う巨人・パギヤン

## 独演会 in 大倉山記念館

日本一の曲師「沢村豊子」の三味線でパギヤンの浪曲を聴けるは芸人三昧だけ?

公演内容(構成)

一、浪曲「石松代参」  
曲師：沢村豊子

二、韓国古典民謡&パンソリ  
お仲入り(休憩)

三、浪曲「石松三十石船道中」  
曲師：沢村豊子



主催 芸人三昧

### 2019年9月15日(日)

### 午後1時30分開場

### 午後2時00分開演

### 大倉山記念館第十集会室

### 全席自由席で、40席限定

開場時間前にお客様が並んだ場合は  
チケット番号順に入場対応します

	前売券	当日券
料金	3000円	3500円

### 大倉山記念館のご案内

●東急東横線大倉山駅下車 徒歩7分  
※一般ご来場者の駐車場はございません  
ご来場の際は公共の交通機関をご利用ください

### チケットのお求めとお問い合わせは

ホームページ「芸人三昧」のHPの申込のページから簡単に購入ができます。  
<http://geinin2.syoutikubai.com/>  
「芸人三昧」で検索してください

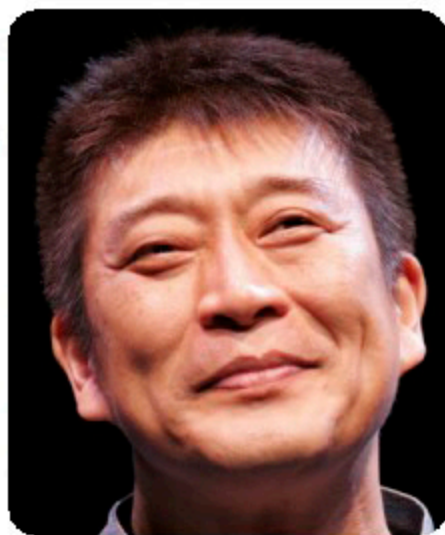
メール...erbu@kf.netyou.jp

電話&FAX...045-568-5947(常時留守電)

当方は、常時留守番電話です。当方から折り返し電話しますので、留守電のメッセージ通り、録音願います。携帯電話で登録電話番号以外を着信拒否にしている方は、解除願います。前売券の販売は、公演日前日の午後7時までです。会場への直接の問い合わせはご遠慮願います



# バギヤん



大阪市西成区出身の在日韓国人ミュージシャン&歌劇派芸人。愛称は「浪花の歌う巨人・バギヤん」。デビュー以来、メジャーシーンで扱われない題材・テーマにこだわって表現活動を続けている。二〇〇二年から、同じ在日の芸人であったマルセ太郎の得意演目「スクリーンのない映画館」(映画再現芸)に独自の視点を加味した「声体文藝館」の公演を開始する。代表作は『ホタル』『砂の器』『青春の門・筑豊編』『泥の河』『パッチギ!』『キクとイサム』『マルコムX』『風の丘を超えて/西便制』など。

# 沢村豊子



写真：楳引典久

さわむらとよこ 曲師(浪曲三味線奏者)。十二歳の時から山本艶子師の指導で浪曲三味線の修行にはいる。テレビ、レコードでは三波春夫、村田英雄、二葉百合子などの三味線も弾いた。とりわけ国友忠によつて浪曲化された『銭形平次』の連続ラジオ小説は十二、三年担当し、国友との共演で一世を風靡する。近年においては、ベテランから若手まで隔てなく曲師を務め、多くの舞台や放送をこなす。音色の美しさには定評があり、今、日本一の曲師!

# お客様感想から

◎夢のコラボが実現して、とても楽しかったです。これを機会に、第二・第三弾と、是非、続けて欲しいです。

◎今年、初めて貴会でのバギヤん公演。また観るならやっぱり芸人三味だと思っていたら、なかなか機会がなく、今回まで十年以上過ぎてしまいました。そんなところへ浪曲。しかも、萱子師匠が曲師。何とも贅沢な一時でした。

◎小学校から帰るとラジオをつけ、広沢虎造が出るといつもいつも聴いていました。今日は、沢村萱子さんの三味線を堪能しました。

◎沢村師匠の三味線、良い音色でした。良かったです。バギヤんの語りも。

◎初めてバギヤんの浪曲に驚きました。すごいですね。沢村萱子さんの三味線にも魅了されました。

◎バギヤん、初めてでしたが、また聴きたいと思いました。浪曲も、また、聴きたいです。

◎バギヤんと萱子師匠との取合せの面白さを楽しみに来しました。着流しのバギヤんは、虎造が幸枝若かと見ちがう程、その筋の人に見えて、とても期待が湧きました。タンカはやはり低音がしっかり出て良かったです。萱子師匠も見事なフォロウで、是非、次回の続きが楽しみです。是非、続編も期待します。

# 大倉山記念館

八十年以上の歴史を誇る建造物 現在の大倉山記念館は、実業家で後に東洋大学学長を務めた大倉邦彦により一九三二年「大倉精神文化研究所」の本館として創建されました。

設計は、北海道銀行本店、横浜正金銀行東京支店など重厚で格調高い建築を数多く手がけ、日本建築史に大きな足跡を残した古典主義建築の第一人者、長野宇平治です。

研究所の設計をするにあたり、「東西文化の融合」を掲げた大倉邦彦の理想に深く共鳴した長野は、古典主義にとらわれることなく、古代ギリシャ以前の「プレヘレニック様式」という世界的にも希少な建築様式を用いたのみならず、東洋の意匠も取り入れ、まさに東西文化が溶け合った独特の様式美を持つ建造物を創り上げました。

一九八一年横浜市が寄贈を受け、大改修のうえ建物の保存を図るとともに、一九八四年大倉山記念館として生まれ変わり、一九九一年には横浜市指定有形文化財に指定されました。

また、ギリシャ神殿様式のピロティ、昭和初期の雰囲気を残す第五集會室、神社建築の木組みを取り入れたホール、エントランスなど、映画やテレビのロケ地としても数多く活用されています。